

秋田県  
退職校長会

# 会報

題字 秋田 師山 書 (秋田市会員)

第 94 号

秋田市手形学園町1-1  
秋田大学教育文化学部  
同窓会旭水會 内

令和2年3月21日 発行

秋田県退職校長会



## 当たり前のことを当たり前前に

秋田県退職校長会副会長 高橋 一郎

本会結成50周年記念事業においては、皆様のご支援ご協力があり、すばらしい会であったことを感謝申し上げます。あれから半年しかたっておりませんが、まだ興奮冷めやらずの余韻が残っております。

記念誌を発行するに当たって、そのきっかけとなったエネルギーは、「全国学力・学習状況調査」結果が全国上位を維持し続けたことの謎解きにありました。なぜの疑問は我々だけではなく、全国に及びました。「日常的に普段通りやってきただけです」「当たり前前」のことを当たり前にやってきただけです」と、さりげなく放つこのことばだけが耳に残りました。そんなはずはないと全国からの訪問者が絶えず、原因説明が囁かれましたが、判然とした答えはなかなか出てきませんでした。記念誌の第Ⅰ章をご覧ください。実は、一朝一夕に今があるわけではなく、半世紀に渡る歴史が秋田の教育を創り上げてきたのです。第Ⅱ章は学習指導に関わる調査結果から見た秋田の教師の実態です。第Ⅲ章は授業（学習指導）実践時に大切にしてきたことと役立ったことからの提言です。第Ⅳ章は、授業について語り継ぐべき逸話などの紹介です。秋田の教師のすばらしさがいたるところに溢れています。

少し戻りますが、記念誌の第Ⅰ章に秋田県教育研究所が昭和四十二年三月に発行した『教育研究と実践の道しるべ』が紹介されています。佐藤俊彦会長からその書籍をお借りでき、読ませていただく機会を得まし

た。その「序」に伊藤忠二教育長は「学力の向上は、教育の正常化によって達成されねばならぬ」とし、以下失礼ですが簡潔に箇条書きすると、①「ためにする教育」ではない ②教師自らが教育研究に励まなければならぬ ③人間形成への努力が学習指導の重要な因子である ④教育の正常化こそ学力向上をもたらす、人間形成の実をあげる」と論じています。続いて堀井喜一郎研究所長は、本書の底を流れる思想は、①どんなに能力の低い児童生徒にも何かしら役に立つ能力が潜んでいる ②一生を努力で貫く生活態度を培うことが教育である ③全人教育を目ざし、また教育の全体計画の観点から研究を進める ④師弟が一体となつて生きた知識を探究していく ⑤教育の働きは、精神の完全燃焼作用である」としています。驚くべき教育理念です。このような教えや思想が少しずつ我々に浸透し、今日の秋田県教育を生み出してきたのかと感じます。

最後に、表題とした「当たり前のことを当たり前前に」に言及します。この意味の不確かさと奥の深さは言うまでもありませんが、内館牧子氏は、昨年の十一月三日秋田魁新報に「普通じゃないの!!」と、県民が「普通」としていることは、他では「特別」なのだ。そこに早く気づいて個々が発信していく必要があると、まとめていました。まさに然りだと思っております。

統合により閉校になった校舎の状況を調査したことがあります。利活用が上手くいつているケースもありますが、朽ち始めた校舎には、直視できないほど悲しく心が痛みました。「統合は現校舎の利活用も平行して進めるべき」との考えで進めます。が、保護者等からは、「子どもの希望する部活動等が可能な統合を先に」を趣旨としたものが多い。生徒数の減少は、検討に十分時間を割くことができないほど、予測を上回るという実状です。

ところで「統合」

は何故実施されるのだろうか？所謂「少子化」に伴い、学校の小規模化や多学年で編制される複式学級は、子ども達の受ける教育条件の悪化であり、教育の平等・公平性から、優先的に解消されるべきだと理解しています。

「少子化」という言葉は、私達団塊世代が教職に就いた、昭和四十年代の終わり頃にはまだ無かったと思います。旧文部省による定数改善も進み（一学級四十人）、在校生千人を超す学校も全県各地にあつて、統合など、身近な課題とは捉えられなかったのです。

さて「少子化」は、いつ頃から社会問題化したのだろうか？インターネット情報によると、広辞苑第五版（平十）で「出生率が低下

し、子どもの数が減少すること」と掲載されました。これ以前は、「少子」の意味は、一番若い子、末子とされていたとのこと。平成四年度の国民生活白書で使われたこと、平成二年度の出生率が一・五七と丙午の率を下回ったことが契機のようなのです。

現状で懸念することは、不登校の数が驚くほどに増えていることです。子どもの全体数が減少しているのにです。教職員定数の減少で生徒指導面で「個に応じたきめ細かい指導」が手薄になつて

るのだろうか？

## 「少子化」雑感

秋田県退職校長会

理事 須藤 幸紀



が手薄になつて

今学校は、新指

導要領実施を目前にして準備に忙しい。加えて小学校

では、五・六年生の教科英語、三・四年

生の外国語活動、

プログラミング教育等、教員に就いた頃には

予想もしない状況に戸惑っているのかもしれない。

定数改善や働き方改革への取り組みは、十分理解できるが、教員一人当たりの業務量が多過ぎるのです。教育に携わる方々が、「個に応じた教育には、教員がもっと必要なこと」を、文科省に届くような行動をし、「学校は楽しい」と実感し、「子どもには学び甲斐、教師には教え甲斐のある学校」（教育連

携の豊島区三田一則教育長の目指す目標です）の実現の後押しを心掛けたいものです。

## 県事務局だより

事務局長 長澤 公生

今年度実施した主な事業

4・18 平成30年度監査 協働大町ビル

5・9 県理事会・総会 協働大町ビル

6・4～5 全連退理事会・総会

7・6 郡市会長・事務局長合同の会 きゅりあん（東京）

7・25 結成50周年記念事業（兼）秋季研修大会案内発送 協働大町ビル

7・25 県会報93号、全連退会報第212号の発送

9・30 全連退理事会 きゅりあん（東京）

10・10～11 第47回東北地区退職校長会協議会（青森市）

10・12 結成50周年記念事業（兼）秋田県秋季研修大会

11・1 あきた教育の日 秋田ビューホテル

12・23 関係各所へお願いプリントの送付 賀詞を各郡市事務局へ発送

※他に全連退からの調査報告等を行つて

いる。

秋田県退職校長会

## 結成50周年記念事業

兼第41回秋季研修大会開催

表記事業が令和元年十月十二日(土)に秋田市のビューホテルを会場に盛大に開催された。その概要をお伝えします。

## 【記念式典】

## 佐藤俊彦会長式辞 (一部抜粋)



五十年前の秋田の空も、四十年、三十年前の秋田の空も、今日の「輝ける空」に繋がっているように思います。それは、秋田の学校には子どもたちの元気に学ぶ姿が、今も脈々と受け継がれ、真摯に授業に立ち向かう教師の指導技術も綿々と引き継がれていて、秋田の学校文化として根付いているからにはかなりません。

校長として秋田の学校に勤務し、退職してからも秋田の教育的風土に触れていけることの喜びを実感しております。

また、今回は結成五十周年という「大きな節目」に出会えたことの感動を、この記念誌「秋田の教育・あすを見つめて」に込めました。この後の「シンポジウム」は秋田の学校を長年にわたって、深く見つめて来られました大学の先生や仲間たちと秋田の教師について語り合い「明日の授業を創る秋田の教師たち」

に少しでも思いが伝わるような機会にしたいと考えております。

本日は五十年にわたり秋田県教育の活性化のために、一緒になってご尽力いただきました先輩・後輩など、「同僚」の一人一人の「お顔」を思い出しながら「教師を語る一日」にしたいと思えます。

私たちを育み、鍛えていただきました学校を、今後も支え、秋田県教育の発展を応援して参りますことを誓って「式辞」といたします。

## 秋田県副知事川原誠氏祝辞 (一部抜粋)



会員の皆様には長きにわたり、学校における直接的な関わりに加え、青少年の健全育成の積極的な推進や生涯教育を支えるための社会環境づくりに通じて地域の学校を温かく支援して頂くなど、秋田県教育の振興にご尽力頂いておりますことに、この場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。

県は、昨年三月「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」を策定しました。・・・我が国全体で少子高齢化と人口減少が進む中、本県は特にその動きが早く、人口減少社会における県勢の維持・発展が最重要課題であることから、県では少子化対策や子育て支援対策などの直接的な歯止め策に加え、未来を担う人材の育成などの施策をプランに位置づけ、重点的に取り組んでいるところであります。教育の分野におきましては、重点戦略の一

つに「ふるさとの未来を拓く人づくり戦略」を位置づけ「将来の秋田を支え、未来を果敢に切り拓く気概に満ちた人材を育成する」ことを目指しております。・・・

県民の理解と協力をいただきながら、全国に先駆けて実施している少人数学習推進事業をはじめ、地域に根ざしたキャリア教育の推進等は、子ども一人ひとりに応じた教育の充実や地域との関わりを通して、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことに繋がるものであるととらえております。こうした取組が全国的に高い評価を受けてきていることは、誇らしく、子どもたちの姿に頼もしさを感じているところであります。

こうした秋田の教育の礎を築いてこられたのはまさに、本日お集まりの皆様方であり、今後も豊富な経験と高い識見をこれからの秋田県のために生かし、変わらぬお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

## 秋田県教育委員会教育長

## 米田進氏祝辞 (一部抜粋)



この五十年の間、秋田県の教育を取り巻く環境は大きく変化しました。昭和三十一年代、全国学力テスト等に見られる秋田県の子どもの学力は必ずしも高いとは言えない状況でした。しかし、このような状況をなんとかしなければいけないという教育関係者の熱い思いは、基礎学力の向上に向けた各学



校の授業改善への積極的な取組に通じ「全国学力・学習状況調査」等の結果に見られるように大きな成果となって現れたものと捉えています。

県教育委員会が、平成十三年度から全国に先駆けて取り組んで参りました「少人数学習推進事業」は、平成二十八年度には義務教育全学年で実施するところとなりました。また、...学力以外にも不登校出現率や暴力行為等の出現率の低さ、体力、運動能力においても全国トップレベルとなっていることは、皆様もご承知のとおりであります。

県では「秋田の教育力発信事業」の一環として学力向上フォーラムを開催しておりますが、平成三十年度、大館市を会場に行われたフォーラムへは県外からの四百八十九名を併せ、千四百三十三名の教育関係者が参加しております。...また、「秋田の教育資産を活用した海外交流促進事業」において、「秋田の探究型学習」に基づく、グローバル社会に対応できる授業モデルについて、タイ王国の連携教育機関と共同研究を進めて参りました。...

これらのことはとりもなおさず皆様が長年にわたり本県教育に携わり、リーダーシップを発揮しながら、その礎を築いてこられた成果であると考えております。その豊かな経験に裏打ちされた教育への高い識見に基づき、今後とも学校教育の充実・発展のためにご指導頂ければ幸いです。

## 秋田県退職校長会綱領制定

結成五十周年を期して「綱領」が制定された。昨年度から佐藤磯男副会長（常任理事）を作成委員長に常任理事会において案の検討を重ね、本年度の理事会、総会を経て制定されたものである。

### 秋田県退職校長会綱領

われわれは、秋田県退職校長会の結成以来の歴史や活動を継承し、本県の教育の将来を見定め、会員としての自覚と誇りをもって、ここに綱領を制定する。

- 一 教育尊重の気運を高め、秋田教育の振興に寄与する。
- 一 生きがいをもって生涯学び続け、充実した生き方を実現する。
- 一 会員の親睦を図り、福祉の増進に努める。
- 一 地域の教育・文化の向上や、良好な環境の形成に努める。
- 一 関係機関、団体と連携・協力して、活動の発展を図る。

令和元年十月十二日（結成五十周年）制定

## 秋田県退職校長会 結成50周年シンポジウム（記録）

■日時 令和元年十月十二日（土）10時～12時  
■会場 秋田ビューホテル4階「飛翔の間」  
■テーマ 『秋田ブランド』創造の教師たち  
■シンポジスト  
東北大学大学院教授 山本 昌弘氏  
帝京平成大学准教授 山本 佐江氏  
秋田市立目新小学校校長 鈴木 巧氏  
元秋田市立築山小学校校長 濱田 眞氏



高橋一郎副会長（研修委員長）から、シンポジウム開催に至る経緯や主旨についての説明の後、濱田氏のコーディネートした、以下、紙面の関係上、発言の一部（要点）のみ、また編集者の主観に基づいたものではありますを紹介いたします。

### 《濱田》

これまで秋田の授業を観察されての印象や、その後の授業研究などから得られた成果についてお願いします。

### 《山本》

50周年記念おめでとうござい

が出来るようになりました。今日の発表はその「記念誌」に書かれた珠玉の一言一言への応答のつもりでお答えさせていただきます。私が考える「秋田の教育」とは、学びを高める文化の中心に、学びを育てる組織があり、さらにその核にはおのの「先生方の自律的な学び」があると考えています。実際の授業観察を通して、私が考えたことは、「評価にあふれているが評価にまみれてはいない」ということです。この評価とは、子どもの学びを育てる評価、教師の指導を改善する評価、説明責任の評価のことです。記念誌の10頁にありますが、授業中の子どもの情動的な兆候（シンボトム）をどう捉え、先生だけでなく子ども自身によっても学びを評価し、深めていくためのものです。優れたリーダーシップの元、戦後すぐの時代から秋田県では実証的な学力調査に基づく授業改善が行われていました。学力は何よりも、教員による授業の質の問題ととらえられていたのです。テストは数値の結果や順位に踊らされたのではなく、改善のために使われてきた歴史があつたのだと考えられます。秋田には、間違いや失敗の場面に對する寛容な教室文化が存在していると思います。すなわち、正しいのか、間違いなのかの結果よりも、間違いを通して修正し、学

びを深めていく価値が共有されています。そして、間違いは、学習が発展的に展開する機会となります。また、学力に関しては、数十年前にわたる実態調査がなされ、学力の低いところはどこか、それはなぜなのか、という検証の歴史が積み重ねられてきました。教師による授業の質の課題として、多くの授業改善が各学校で各先生方によって、地道に継続的になされてきたと思います。

### 《濱田》

全国学力調査が行われるまで、私たちは「秋田の授業」について、ほとんど無自覚でした。しかし今から三十年以上前に、秋田の授業に注目されていた方がここにいらつしやいます。有本昌弘先生です。

### 《有本》

ほぼ四十年前の1980年代の昭和最後十年間は、日本教育の歴史の転換点で、しかも今の教育の源流であったことを、私を含めて、今日ここで皆様とともにしっかりと確かめ合いたいと思います。

第一に1980年代は、戦後の「教育の転換点」であったのではないかと思います。資料の7頁にある1965年当時の伊藤忠二秋田県教育長によつて「教育の正常化」が訴えられました。その後「学習指導要領」では、振り子のような何らかの揺り戻しがあつても、秋田は、極端に変わることなく、底流に脈々と水の流れるごとく、ふるさと秋田への郷土愛に基づいた児童生徒個々への熱き思いと慈愛がありました。そのため、大きな教育改革があつてもバランス感覚や平衡感覚を持ち続けたと思います。当時世界を席巻していた数量化可能な目標は、評価を容易なものにするものの学力を狭く限定し、授業は貧弱なものになってしまっています。しかし児童生徒の感情（学びに対する意欲的な反応）があれば、学ぶ意味、価値が理解でき、学びの質は高まつていきます。

1980年代の秋田の「学校研究主題」をさぐると、学校全体でエビデンスを集める仕掛けとしてしっかりと機能していることが分りました。これはすごいことなのです。現在の七十歳代以上の秋田県の先生方のご努力に敬服し、最大限の感謝と賛嘆の意を表したいと思ひます。

当時、全国的に「習得型」の授業実践が主流であつた中、秋田ではすでに「探求型」の授業が実践されておりました。これは大変驚くべきことです。欧米よりも十年以上も早いのです。世界最前線の授業実践であるといつても、過言ではないと思います。

「昭和の学力テスト」最下位の秋田が、いかなるプロセスを経て最上位に躍り出たのかを解明した研究は、ほとんどありませんでした。それをこの度、「記念誌」にまとめられたことは、画期的なことだと思います。皆様のご努力に心から敬意を表したいと思います。

### 《濱田》

先ほどの記念誌「秋田の教育 あすを見つめて」では1970年代から1980年代にかけて、「秋田の授業」は大きく転換し、有本先生のご発言を裏付けることができます。そのときから、すでに「秋田型探求学習」が実

践されていたことは、特筆すべきことと思われます。

### 《鈴木》

私が最初に任用になったのは、昭和五十八年（1983年）で、日本海中部地震があつた年でもあります。井川小の先生方は、積極的に子どもと一緒に外で学習するフィールドワークを行つていたことを記憶している教材をしっかりと研究し、それをどう生かすかに取り組んでいました。当時の秋田県の学校のほとんどだと思ひますが、井川でも、地域や学校が子どもを大事にする風潮を強く感じていました。

その後は、築山小学校に異動しました。築山小はTTの研究校として、意欲的な教師が集まり、夜遅くまで学校に明かりがついて「提灯学校」とも呼ばれていました。当時、情意面の評価、形成的な評価をどうするかについて、真剣に語り合ったことが忘れられません。大変厳しい学校でしたが、魅力的な先輩もたくさんいました。学校経営についても、それぞれの教員の持ち味をどう出すのかということが経営の柱になっていたように思ひます。当時の先生たちからは、本当に若い自分がつて授業研究をしたのは、同じように、先輩たちがおもしろそうに取り組んでいたことを間近に見ていたからだと思います。

### 《有本》

世界では、今、主体性とか、好奇心とか、「人間性の評価」が広まつております。「記念誌」の30頁には、「評価の手立」について、二十代、三十代の若い教員が評価を大切に感じている割合が高いことが示されています。適度に評価を試みる時代に移り変わってきたと思ひます。先生方の経験された80年代にタイムスリップして、もう一度、私も学びたい気持ちになりました。

### 《山本》

秋田では多くの「自主的研修」がありました。手弁当の持続的な研修が行われてきたようです。本当に頭が下がります。次々と新しい教育改革が進行していった中、築山小のTTが一つのシステムとして、六十五年間も持続してきていることが、奇跡に近いと感じます。

元々築山小のTTは、子どもの学びを育てると同時に、教師を育てるものとして導入され、継続してきたようです。中でも自律的な学びの主体者として、授業について深く考える先生たちが、意欲的に経営参画しながら、リーダーとして育つていったところがポイントだと思ひます。何人かの先生方の声をいくつか紹介します。

「オールマイティーでないのに、オールマイティーだと思つていた自分を捨てることができて、自分の良いところは隣のクラスにも活かさせていきたい、隣の先生の良いところは隣のクラスにも活かしていきたい、そういう感覚が、このTTでした。もたれ合いではない」「人の作ったものに遠慮しないものを言う。みんなが作ろうという風土がTTにはありました。多分TTというのは、誠意じゃないですか。人のために、何かしなきゃ。2C3Tをやると、よそのクラスとまぶれるじゃないですか。だから

よその学級に入つて行かなくちゃだめでした」このように充実感、お互い様、誠意などの「同僚性」が育まれていった経緯がよく理解できました。

現在は、必ずしもTTが教育改革の焦点とはなつておらず、十分な体制が組めるようになっていません。ただ、ここで育まれた「同僚性」は、見えないTTとして、職場でお互いを支え合う基盤となつていっているようです。築山小での聞き取りの中で、「TT」というのは、人の組み合わせだつた。あれは、昔の宮大工の匠たちが、神社仏閣を建てるときの木組みと同じだ。癖のある木と癖のある木を組み合わせることで、こう反るの、こう反るのを組み合わせる、むしろ強固になるという。木組みは人組た。くせのある人同士を組み合わせるよりよい授業を創りなさい」ということを聞きました。

「二人の子どもをより良いものにしていくためには、複数の教師が、味を出しながら、自分の得手、不得手を生かしながら、学年の子どもたちに対応して行こうじゃないか」ということが、根底にあります。子どもの多様性に対して、一人の教師には限界があります。コースを増やせば子どもの自己選択の機会が増えます。子どもの多様性により応えたい。チームを組んでもいいことを一緒に考えたい、「学習指導案」を一緒に考える、授業づくりを一緒に考える、生徒指導をチームを組んでやつていくなどは、授業の中で目に見えるTTと、目に見えないTTとは別物なのです。

学び合う秋田の先生たちには、切磋琢磨の中から、教職の充実感が生まれてきます。ある時は自分で悩まばき、ある時は同僚からの厳しい指摘を受け、改善を通して初めて得られるものです。良い授業は、一人のものではなく、お互いに足りないところを補い合つて、さらにより良いものを作っていきます。そこには子どもへの、また教員同士への誠意が存在します。人を生かすには優れたリーダーシップが必要で、リーダーは授業研究を通して責任ある経営参画の中で育つていきます。

《キャサリン・ルイスからのビデオメッセージ》

日本の先生からお話を伺い、米国やヨーロッパへの励ましをいただきました。秋田県の学校では、「授業研究」が50年以上続けられています。私たちは、これについてもっと知る必要があります。今日は、日本の授業研究の歴史を発表していただき、非常に励ましくなりました。ありがとうございます。そして退職校長会50周年記念おめでとうございます。（教育研究者・オランダのアムステルダムでの学会にて）

### 《有本》

私は欧州やアジアの学校訪問をしました。「何が日本の教育と違うのか」その謎を紐解く鍵は、日本の授業実践の日常を組み込むことにあるに至りました。それは「場」と「集合意識」に集約される日本文化にあるもので、その思いが徐々に強くなつて参りました。この「持続可能なもの」とは何かとか、どうやって広めていくとか、どのような組織構造なのか、中間層の指導者をどう育てるのかについては、ものの見事に、今回の校長会の「記念誌」があまり出しています。



何が大切かというところ、「学び合い」、「探究」、特に注目すべきは「場の設定」です。教師は自分の教室だけをマネージングするのはなく、学年全体を共同でマネージングすることが大事です。しかも、子どもの考えを生活に持ち込みながら、学年全体が学校の中で「場」として機能させる。そして、児童の教育を改善するだけでなく、指導者を作り上げ、教師をミドルリーダーにすることで、世界の国々へこれについてもっと聞きたいと言っているわけです。

本日のキャサリンの話にもありましたように、アジアのみならず、欧州、そして全世界が、「秋田の授業研究」に注目しています。今後は、非常におもしろいことになりそうです。私たちは、戦前から欧州から新教育を学んできたわけですが、今度はシルクロードの東端の日本、しかも東北秋田からの逆発信です。

#### 《演田》

「集合意識」というキーワードで、退職校長会のアンケートを考察していただきました。私も先月、有本先生、山本先生と一緒にオランダのアムステルダムで、シンポジウム発表をさせていただきました。その後、タイの先生たちが十人近く集まってきた。「秋田型の学習スタイルは、今タイでは、スタンダードになりつつある」と話していました。そして、それがどのように形成されてきたか今回の発表で初めて分かったそうです。それは職人の技だけではないで、職人の魂であり、その職人の魂を支えているのが「集合意識」とあるということです。心を揃えて子どもたちに関わっていくこと、子どもたちがよりよく育つ「場」の設定をすることなどのコメントがございました。

#### 《山本》

教育改革を受けて、私たち教員は様々なことに一生懸命取り組んでいます。秋田の先生たちの昔から現在に至るまでの様々な資料を読んでいると、ほんとに日々の地道な「授業改善」を続けていらしたということが分かっていました。それが、「記念誌」にも非常に詳しく書かれておりまして、興味深く読ませていただきました。ありがとうございました。

確かに教育というものは、何かをやれば、何らかの成果はでるものだと考えております。ただ、その成果の出方というものは、高い低い、大きさの違いがあります。これまで多くの秋田の先生たちからお話を伺うと、先生たちの学びの履歴の過程で育まれたもので、必ずしも一つの施策だけで功を奏したのではないと思います。

#### 《演田》

かつてイギリスやアメリカを中心にテストスコアで、学校間競争を促して学力を高めるという教育政策がかなり強い影響力を持っていた。1990年代から2000年代にかけてだと思えますが、我が国の教育政策もこれとは無縁ではなかったと私は考えています。この「競争原理に基づいた教育政策」は、果たして成功したのか否か、もう一つは、「全国学力状況調査」などの大規模調査に、私たちは今後どのように向き合っていくべきかという点について、お考えを伺ってよろしいでしょうか。

#### 《有本》

「学び」には、心理測定と社会的構成の矛盾するモデルの両立をしなければなりません。人づくりは、ものづくりと違います。したがって、数値で表される大規模調査というものは、教育政策の改善に使うことがあっても、「学校間競争」に使われると、欧米の国々のように失敗に繋がると思います。そのような理解に立つと、やはり「授業研究」は大切であると考えます。

#### 《フロア・武蔵》

大仙市立大曲小学校の校長の武蔵です。今日の先生たちのお話を聞いて、秋田の「授業改善」に対する取り組みは、ずっと以前から行われていたこと、そしてそれを支えていた「同僚性」その「同僚性」の中でミドルリーダーが育ち、継続してきていることが分かりました。そこで、これから私たちが、現場の学校経営を進めていく上で、壇上の先生たちは何が大事だと思われるでしょうか。教えていただければありがたいです。

#### 《山本》

自分たちが作り上げる喜びを背負わないと、教育は狭く、小さなものになってしまうのではないかと思います。単元や授業をデザインする、作り上げる、クリエイティブなものをもみ込んで作り上げる喜びというのが、「働く原動力」となると思います。そうすると、「自律」や「自由度」というものも、どこかで保証されなければなりません。現場では、やらなければならないことが多くある中で大変なのですが、自律的な気持ちという精神を大切にして、クリエイティブなものを作っていただきたいと思っています。

#### 《有本》

カリキュラムの最先端の定義は、「世代間の対話」と欧州では言われています。これからは、「アクティブな学び」を高校、大学でもやっていかなければならないこととなります。小中高大を通した「貫いた授業研究は、今後ますます重要になっていくと思います」。

#### 《フロア・若林》

「秋田の学力」が大変素晴らしいことは、以前から分かっておりますが、今日は、その根底にあるものが、「教育の正常化」という言葉で語られている「本質」をつかんだことが、私にとつて「落ちるもの」がありました。秋田の先生たちが、根底に「おちるもの」がありまして、いこうという気持ちをもって、子どもたちを育て、同時に先生たちにとつても人間らしい追求をしてきたこと。いろいろなものに振り回されず、核心である学習の軸がぶれなかったことが、素晴らしいことだったと思います。

#### 《山本》

「秋田の教育」の現在は、長期的・広域的な授業研究と、その成果を絶えず検証改善してきた歴史の中に存在します。そして未来の展望は、その流れの中で見えてくるものであると思います。秋田の教師文化は、先人に学び、成果を共有し、教育の未来を拓くという、日常的な授業実践から生まれてきたものだと考えます。一人一人の教師の取り組みと、その力が合わさった集団の信頼と誠意によって教育の「秋

田ブランド」の創造がなされたと思います。

#### 《有本》

今回の調査で明らかになった授業の「大切度」と「役立ち度」をデコにして、先生方がお一人一人の物語を紡いでくださるものと確信しております。

#### 《鈴木》

「授業案（学習指導案）」を作成する際であっても一人ではなく、チームを作って作成することが大切で、それを支える教師集団作りが大切なことはこれからも変わっていないものだと思います。これまで先輩たちから受け継いできた実践や経験を何とかして引き継ぎ、「秋田の教育」を継承して行きたいと思っています。心配なこととして、「学校における働き方改革」があるわけですが、業務の効率化という面から見れば、「これからは新しいことが生まれにくいのではないか」ということが危惧されます。学校がやらずに忙しいう業務が削られていく一方、新しいことに取り組む時、忙しいという理由だけで、積極的にできない雰囲気になることが懸念されます。

これからは、「教育の質をあげる」、「教育の質を保つ」ことを念頭におきながら、学校経営を進めていく校長のリーダーシップが必要になると思います。校長が、どう教育の質を高めるか、確固たる覚悟を持たなければならぬと思います。

「秋田の未来を拓く子どもたち」のために、現職の校長として、まずまずのご活躍をお祈りしております。私たち退職校長会も全力で応援することをお約束します。これも貴重なご意見を、有り難うございました。

#### 《謝辞・佐藤会長》

本日のシンポジウムは、秋田県の教師にとつて、とても元氣の出る内容で、本当にありがとうございました。日本一流、世界一流のお墨付きをいただいたような気持ちです。これまで頑張ってきた良かったという思いでいっぱいです。

シンポジストの先生たちのお話を伺いながら、これまでの50年のこと、そしてあの時、自分を動かしていったものは何だったのかというところを改めて思い起こしました。今日はたくさんの方の示唆に富むお話しの中で、自分が思ったことは、「教師は誰のために仕事をしているのか」ということでした。勿論それは、子どものためであり、授業構想においては「学習の最適化」だとも思います。子どものために、もっとも適した学びは何なのかという「学習の最適化」というキーワードをこれからも大切にしていきたいと思っています。

本日の会は、このようにグローバルなシンポジウムになりましたが、これだけの広がりをもって話が展開されましたことを、是非、本日参会されている皆様も各地区に帰られまして、若い先生たちと懇談なされる際に、今日のお話を少しでも伝えていただければありがたいと思います。本日は感謝の気持ちでいっぱいであり、有り難うございました。

## 郡市だより

Ⅱ 鹿角だよりⅡ

### 今年度の事業から

事務局長 吉 田 啓 一

○総会 (三十一名参加) 四月二十五日

北教育事務所鹿角出張所の阿部所長を始め、鹿角市・小坂町の両教育長、現職校長会千葉会長を来賓に迎え、盛大に開催された。

○教育懇談会 (三十八名参加) 九月六日

食育インストラクターとして県内外で活躍されている小山明子氏(大館市在住)から『人生一〇〇年時代に活かす！みそ汁と食教育』をテーマに講演していただいた。

「みそ」のもつ可能性を切り口に、「栄養と健康」の話題から「人間の生き方」につなげてお話しくださった。「課題多い世の中ではあるが一人の母親、また地域の一員として、子ども達には何があっても懸命に生き抜いて欲しい」と熱く語る姿が印象的だった。

○野外研修会 (十五名参加) 九月二十七日

一昨年の台風で先延ばしになっていた「白神リゾート列車 五能線の旅」が実現した。東能代駅から鯉ヶ沢までの紺碧の日本海に心洗われ、世界遺産である白神山系の雄大な自然にロマンを感じながらの列車の旅は、二年越しの願いが叶った喜びと相まって至福のひとつとなった。また、昼食でいただいた海の幸三昧の「鯨御膳」、化石海水温泉にのんびり浸かった贅沢な時間は格別であった。

Ⅱ 大館北秋田だよりⅡ

### 結成四十五周年記念

事務局長 佐 藤 久 生

本会が昭和四十九年に結成されて今年度で四十五年を迎えた。会員の年齢的なことを考慮し、五年ごとに記念事業を実施している。今回は三年ぶりの現職校長会との合同研修会の年とも重なった。十一月三十日(土)、ホテルクラウンパレス秋北を会場に、記念式典と合同研修会を兼ねて記念講演を開催した。佐藤俊彦県会長をはじめ来賓、現職校長を加え、約百十名の参加を得た。式典では祝辞のほか、今年度めでたく傘寿(八十歳)を迎えられる四名に長寿者祝い品を贈った。

記念講演は、「未来を切り拓くドローン」と題して、地元の東光鉄工KK取締役UAV事業部シニアマネージャーの鳥潟與明氏からご講演をいただいた。様々な分野でニーズが高まっているドローンの利活用について、農業用大型ドローン開発や多目的防水ドローン(レスキュードローン) 開発プロジェクトなど、具体的な記録映像の紹介もあり、大変有意義な講演内容であった。

その後の祝賀会で、さらに交流を深めた。また、同日、記念誌を発行した。四十五年の歩みのほか、三十七名の会員から「退職後の豊かな生きがいをもとめて」を踏まえた寄稿文を掲載した。どなたも充実した日々を送られている様子が目に浮かぶ内容であった。

Ⅱ 能代市山本郡だよりⅡ

### 今年度の主な事業を振り返って

事務局長 佐 藤 敬 顕

○今年度の定期総会を四月二十日に、北教育事務所山本出張所の佐藤克所長、能代山本市町教育委員会連合会の高橋誠也会長、秋田県退職校長会の高橋一郎副会長、能代市山本郡校長会の野村重公会長を来賓に迎え、五十一名の会員の参加を得て開催した。新入会員八名の紹介の後、議事では前年度の会務・決算報告に続き今年度の事業計画案・予算案等について審議し承認した。また、役員改選では須藤幸紀会長をはじめ新役員が選出された。なお、今年度から土曜日開催としたことにより、これまでは再雇用等で参加できなかった会員からは参加できてよかったとの声が聞かれた。

○現職校長会との共催事業である教育懇談会を七月二十六日に行い、来賓、現職校長会員、退職校長会員を合わせ六十九名が参加した。講演会では能代市社会福祉協議会から講師を招き、「介護保険制度について」のお話を拝聴した。制度の仕組みや介護施設の種別等について知ることができ大変勉強になった。講演会終了後の懇親会では会員相互の親睦を深めるとともに、現職校長を介して学校教育の現状について知ることができ、有意義なひとときとなった。



Ⅱ男鹿市だよりⅡ

## 「玄友会」研修会(十月十四日)

事務局長 浅井 繁 樹

「玄友会」は、現職校長と元校長が集う五十三年の歴史を積み重ねる会である。三十二名が出席し、総会及び研修会・懇親会を開催した。研修会の発表は、現職と退職校長が一年交代で発表することになっているが、今年度は「教員生活を支えた三つのこと」と題して、会員の近藤貢太郎氏が発表した。近藤氏は、高校での教員生活を支えた「趣味」について発表した。高校生の時に始めた「短歌」、大学で始めた「演劇」、高校教員になった始めた「謡」についてである。

「短歌」から学んだのは、教師が体を通して捉えたことは生徒に伝わることである。

「演劇」は面白くなければ客は来ないが、学校には生徒がやってくる。さらに、「演劇」は、脚本・音響・舞台装置・演出などの役割をそれぞれが担うことで成り立つ。教師には生徒に個性や特性に応じて役割を与え、全体をまとめ上げる演出家の力量も必要である。

「謡」の師匠からの指導は、「教えてもわからないものだから真似ろ」であった。師匠の自信をもった言動や稽古の様子から、教師としての在り方に気付かされ、教えることよりも学ぶことがつらく困難であることも気付かされた。

Ⅱ潟上市・南秋田郡だよりⅡ

## 総会・合同研修会について

事務局長 佐藤 信 幸

○総会・研修会 四月十九日

総会では新会員を紹介し、当日出席の畑澤千景氏からあいさつしていただいた。議事に従って今年度の活動が承認され活動がスタートした。

研修会は、永井博敏氏を講師に「保育養成校の今と変化する保育環境の中で」という演題で講話していただいた。幼小教育の連携という点で大変興味深い内容で、参加者からも好評だった。

○合同教育懇談会 八月十七日

現職校長との合同教育懇談会では、退職校長会会長の渡部晟氏から「ジオパーク男鹿半島く絶景の過去を探索」という演題でご講話いただいた。男鹿半島の六力所について写真を見ながらの分かりやすい説明であった。その後小グループ別の情報交換も、テーマを絞った話し合いがなされ、現職・退職校長会両方の会員にとって有意義な時間となった。

当会では、総会と合同教育懇談会が大きな事業である。講師選定は会員からとなっており、人数も少なく高齢化も進んでいることから難しくなってきた。研修の内容や講師の外部依頼など、これらを工夫しながら事業を進めていきたいと考えている。

Ⅱ秋田市だよりⅡ

## 今年度の事業から

事務局長 加賀美 俊 一

十一月九日(土)に第二十七回目を迎えた現職・退職校長会教育懇談会が協働大町ビルを会場に開催された。来賓に稲田修中央教育事務所長、嶋崎公人秋田市教育委員会教育次長をお迎えし祝辞をいただいた。

懇談会は、「学校経営の活性化のために」一人一人の教員の「教師力」向上に向けてのテーマのもと、「教師文化の確かな継承に向けて」第二年次をグループ討議題とした。初めに、退職校長会研修担当から県退職校長会結成五十周年記念誌に集約されたアンケート結果を基に趣旨説明があり、その後にグループ協議を行った。現職校長から各校が抱える課題が語られ、それに退職校長の経験談が加わって、活発な話し合いが行われた。懇親会では、「秋田記念市民歌」の斉唱もあり、とても楽しく旧交を温める有意義な機会となった。

当会では、現職・退職校長会教育懇談会が大きな事業の一つとなっている。懇談会の在り方について、現職校長会と連携しながら、内容の充実を図っていきたい。また、「楽しい研修」については、同好会制への移行も視野に入れて検討しているところである。



〓 由利本荘・にかほだより 〓

## 退職・現職校長交流研修会から

事務局長 小坂 晃

第三十一回目となった交流研修会が十月五日(土)、鶴舞会館を会場に開催された。

「学校現場における防災教育」をテーマとして、現職から、岩城小学校長・高野睦氏、岩城中学校長・田口良徳氏より「地域連携安全・安心推進事業への取組」について発表があった。その後、由利本荘市出身で元大槌町立大槌中学校長・小野永喜氏(現在は八幡平市博物館館長)から、「危機管理について」として、東日本大震災発生時の学校の状況と対応等についての発表がなされた。

大槌中学校は津波により一階天井までが浸水し、生徒も二名が犠牲となった。大変混乱した中で、生徒の安否確認や心のケア、避難所での対応や学校再開に向けた取組等、校長としてどのような判断や指示をしたのか、壮絶な経験を基にした具体的な発表であった。小野氏は、「何が正しくて何が正しくなかったのか分からない。大事なものは、天災でも人災でも『何が起こるか分からない』を前提に『前例に囚われない、想定に拘らない、先入観をもたない』ことである。」と結んだ。

子どもたちの命をどう守るか、危機管理も含め、学校における防災教育と、校長としての在り方を深く考える研修となった。

〓 大曲仙北だより 〓

## この一年

事務局長 小原 靖

四月二〇日(土) 玉穂会定例総会はグランドパレス川端を会場に六十五名の出席で行われた。総会では予算決算等の議事も無事承認された。叙勲、米寿、喜寿の皆さんの慶祝後、会員発表は「山に魅せられて」と題して伊藤辰雄氏が数多くの山から一部を選んで景色と山野草の写真をもとに講話をいただいた。総会後、祝賀会・新会員歓迎会・懇親会を盛大に行った。

八月二十四日(土) 毎年恒例の現役校長会主催の玉川先賢彰徳行事が温泉ゆばを会場に行われた。例年は九月はじめの事業だが今回は大曲の花火・角館の祭りを考慮しての日程となった。

十月十五日(火) 仙北市会員担当で行われた研修親睦旅行は秋田芸術村わらび座でミュージカル「あきたいぬになりたくて」を観劇。ご当地アイドルと撮影会に盛り上がった会員もいた。

### △各同好会活動▽

郷土カルチャー同好会は美郷町の歴史民俗資料館・佐々木毅記念室、清水巡り、寺町巡り、湧子ちゃん、湧太郎で食事をした。グラウンドゴルフ大会は一回の開催となった。

ゴルフ同好会は二回のコンペ開催で会員も増加中です。

麻雀同好会大会は今年度休止となった。

〓 横手市だより 〓

## この一年を振り返って

事務局長 石川 真須夫

### ○総会・講話(五月二十三日)

二十八名の会員の出席を得て開催した。今年度で百歳を迎える会員・米寿を迎える会員を紹介しご長寿を祝福し、議事に入った。会務や決算等の報告案件、今年度の事業計画等の協議案件が承認された。

総会終了後、恒例となった講話を、会員である佐々木仁先生(前十文字中学校長)にお願ひし、「花と緑で彩るまちづくり」と題してお話をして頂いた。「花と緑」をキーワードに美しい街づくり、人づくりに大いに共感した講話となった。

その後の懇親会では、会員の高齢化等抱える問題も多いが「頑張つて行こう」と会員相互で確認しあった。

### ○教育を語る会(九月二十日)

年に一度の現職校長会との共催行事。基調講演を元大雄小学校長の酒井浩先生から「日本の自然・ニュージーランドの自然」と題してご講演をいただいた。その後、県教委・市教委関係者・現職校長を交えて、楽しく和やかな雰囲気の中、相互の交流を通して現状を知る良い機会となり、今後も改善を図りながら長く続けて行きたいと共通理解しあった。

Ⅱ湯沢雄勝だよりⅡ

萌友会 今年度の活動を振り返って

事務局長 滑 川 道 彦

今年度は県南教育懇談会の当番地区となり、現職との合同研修会を兼ねて開催した。その中の教育講演会では、さいたま市から東成瀬村へ移住した杉山彰氏から、「何もないとこにすべてがあつた」という演題で講演をいただいた。移住決断までの経緯や東成瀬村での暮らしなど、ユーモアたっぷりのお話を聞くことができた。秋田県民の勤勉さは筋金入りだ。豊かな自然があれば人は生きていけるし、退屈もしないはず・・・という思いを込めて最後にオリジナル曲「目をこらしたなら」を歌った。懇親会の話も弾み、充実した研修会だった。

親睦レクリエーションは、「パークゴルフ」と「歴史散歩」の2コースを実施した。歴史散歩コースは、ジオスタ☆ゆざわ（旧高松小学校）でガイドの説明をうけながら「埋蔵文化財」「湯沢の大地の歴史」「押切伸三途川化石」など7つの資料室を見学した。「鎧田遺跡（山田）」「東福寺遺跡（駒形）」から出土した土偶に、参加者は大きな関心を示していた。帰路に立ち寄った関口の香川寺では「弥勒菩薩（高さ4.8m）」を拝観した。江戸時代には質な砂岩の関口石で作られた石仏で、地元湯沢に残る貴重な文化財にも触れることができた。

今後退職後の楽しみが広がっていくような企画を考え進めていきたい。

会員の（ご）逝去

（敬称略）心からご冥福をお祈りいたします。

（93号以降）

| 氏名    | 年 | 月  | 日  | 住 所         | 氏名    | 年 | 月  | 日  | 住 所          |
|-------|---|----|----|-------------|-------|---|----|----|--------------|
| 斎藤 長八 | 元 | 7  | 10 | 鹿角市十和田大湯字荒瀬 | 西村 慧  | 元 | 11 | 1  | 秋田市保戸野       |
| 大越 幸夫 | 元 | 7  | 27 | 鹿角市花輪字上花輪   | 加藤 安總 | 2 | 1  | 21 | 秋田市横森        |
| 濱上 静二 | 元 | 7  | 29 | 宮城県名取市ゆりが丘  | 加藤 雄悦 | 元 | 8  | 13 | にかほ市象潟町字大砂川菅 |
| 阿部 益栄 | 2 | 1  | 18 | 鹿角市花輪字大川添   | 長谷川純一 | 元 | 8  | 26 | 由利本荘市肴町      |
| 小坂 昭雄 | 元 | 6  | 25 | 北秋田市栄字摩当    | 伊東 助三 | 元 | 9  | 10 | にかほ市象潟町字上狐森  |
| 工藤 正明 | 元 | 6  | 27 | 大館市川口字横岩岱   | 豊島 重孝 | 元 | 9  | 13 | 由利本荘市鶴沼      |
| 佐藤昭次郎 | 元 | 6  | 30 | 北秋田市木戸石字屋布岱 | 小野 信正 | 元 | 10 | 13 | 由利本荘市小人町     |
| 赤石 隆夫 | 元 | 8  | 16 | 北秋田市米内沢字寺の下 | 齊藤 司郎 | 元 | 12 | 28 | 由利本荘市東梵天     |
| 日景 達郎 | 元 | 9  | 29 | 大館市釈迦内字釈迦内  | 伊藤 正雄 | 2 | 1  | 10 | 由利本荘市石脇字田尻野  |
| 恵比原 脩 | 元 | 10 | 18 | 北秋田市綴子字佐戸岱  | 斎藤 越  | 元 | 6  | 29 | 大仙市太田        |
| 庄司 チエ | 元 | 11 | 28 | 北秋田市米内沢字御嶽  | 小西 五郎 | 元 | 8  | 13 | 仙北市西木        |
| 田山 義夫 | 元 | 12 | 1  | 大館市豊町       | 有明 孝  | 元 | 8  | 15 | 大仙市大曲        |
| 藤嶋 新  | 元 | 12 | 18 | 北秋田市栄字太田    | 後藤 昭三 | 元 | 9  | 14 | 大仙市大曲        |
| 鎌田 信悟 | 2 | 1  | 28 | 大館市立花字塚の下   | 有明 典二 | 元 | 9  | 24 | 大仙市大曲        |
| 佐藤市之助 | 元 | 7  | 30 | 能代市青葉町      | 信濃 誠  | 元 | 10 | 16 | 大仙市大曲        |
| 山田 芳男 | 元 | 8  | 30 | 能代市青葉町      | 岩田 巖  | 元 | 11 | 14 | 美郷町六郷        |
| 塚本 寿之 | 元 | 9  | 23 | 能代市花園町      | 藤井 久男 | 元 | 11 | 28 | 大仙市大曲        |
| 新谷健之助 | 元 | 9  | 30 | 能代市昭南町      | 寺田 浩  | 元 | 12 | 11 | 大仙市西仙北       |
| 秋元 喜雄 | 元 | 12 | 4  | 能代市住吉町      | 花津谷洋一 | 元 | 12 | 28 | 大仙市中仙        |
| 柳谷 芳郎 | 元 | 12 | 9  | 能代市川反町      | 鎌田 一夫 | 2 | 1  | 6  | 大仙市協和        |
| 新堀 一男 | 2 | 1  | 1  | 三種町豊岡金田字豊岡  | 大塚 彪  | 元 | 8  | 29 | 横手市赤坂        |
| 笠井 三朗 | 2 | 1  | 21 | 能代市昭南町      | 佐々木 忠 | 元 | 9  | 24 | 横手市平鹿町       |
| 小林源十郎 | 2 | 1  | 27 | 男鹿市北浦相川字嶋田岱 | 木母 孝  | 元 | 9  | 28 | 横手市猪岡        |
| 永井慶二郎 | 元 | 12 | 8  | 五城目町字上町     | 加賀 秀敏 | 2 | 1  | 20 | 横手市寿町        |
| 根本 淑  | 元 | 7  | 3  | 秋田市新屋豊町     | 佐藤 正志 | 元 | 6  | 30 | 湯沢市稲庭町字新城台   |
| 大泉 穰  | 元 | 7  | 18 | 秋田市新藤田      | 福嶋 信治 | 元 | 9  | 29 | 羽後町西馬音内字川原田  |
| 齋藤 悦  | 元 | 9  | 6  | 秋田市横森       | 小西 徳彌 | 元 | 12 | 14 | 湯沢市愛宕町       |
| 池端 力  | 元 | 10 | 20 | 秋田市手形       |       |   |    |    |              |



## 会員寄稿

じわり生きがい

このひととき

## 「地域や子どもとの関りの中で」



鹿角

佐藤 良子

教職を退いて早五年。現在、鹿角市教育センターでふるさと・キャリア教育コーディネーターとして働いている。

小中学生の職場見学や職場体験の希望を受け、事業所との交渉を行い、当日は同行して活動の様子を見守る。体験後は、子どもたちの感想文を載せた通信の発行もしている。特に小学生の職場見学では、子どもたちの質問の鋭さや観察力に驚かされることがある。私自身、初めて知ることや発見も多くある。図書館では、「子どもに一番人気のある本はおしり探偵。」、醤油・みそ工場では、「醤油はフルーツの香り、三〇〇種類の香りの成分が、醤油の香りを作っている。」など。同じ見学場所でも、日によって担当者が変わり、説明の仕方微妙に異なるが、さすがその道のプロの方々、子どもたちが理解しやすいようにかみ砕いて教えてくれる。何回同行しても、学ぶ点が多く、面白いと感じている。

事業所からの依頼を受け、学校にボランティアの募集を行うこともある。最初はあまり意欲的でなかった生徒が、人との関わりの中でボランティアの楽しさや喜びを知り、リーダーになることも多い。この経験が、高校進学や職業選択に役立ったと話してくれた生徒もいるので、担当者としてはうれしいことである。実際の活動に至るまで、事業所や学校とのやりとりで多くの時間を要するが、子どもたちの貴重な体験の場となるよう、事業所と学校のつなぎ役として頑張りたいと思っている。この仕事に関わったことで、新しい出会いがたくさんあった。皆さんのお陰で教職時代とはまた違う仕事の楽しさを感じている。

(平成二十七年三月退職)

## あの一言



大館北秋田

勝 又 立 雄

「父さんの肺の中は、煙草の煙で真っ黒だよ。」と言った時の母の顔は今でも忘れない。喫煙経験が皆無で、ある人に「医者泣かせですね。」と言われるほど、今なお通院は勿論、全く薬の世話にもならず生きています。

思えば中学生時代から町の合唱団で歌い始め、大学では定期演奏会で指揮をしたり、東

京「上野文化会館」で歌ったり、大館や鷹巣でオペラに出演したこともあった。退職後は秋田市の「秋田男声合唱団」に七十歳過ぎまで約十年間通い続けたが、国体やプロ野球開会式での合唱等、思えば沢山ある。

秋田内陸チャレンジマラソンの百kmは三回目まで完走し、以後は五十kmを十一回完走し続けている。中学校では野球部キャプテンだったが、マラソンは小学五年生の時から陸上部員にも負けたことが無い程の健脚だった。

一方で、蕨も生えている庭の栗や柿、或いはブルーベリー等の果物、そして無農薬に拘り続けて害虫と戦いながら栽培しているジャガイモやエンドウ豆など、十五種類以上の野菜を新鮮なうちに美味しく食べている。

やむなく大工仕事や屋根・壁の塗装や庭木の手入れ等もあるが、たまには麻雀卓を囲んだり、気が向けば写真を撮ることもある。でも今の最高の楽しみの一つは、正月の「NHKニューイヤーパーラコンサート」を会場で聴くことである。もう六年にもなるが、あの迫力は実に素晴らしい。又、横浜の娘の家から鎌倉まで二、三時間かけて歩いたり、由比ヶ浜や湘南海岸を、年に数回まるで自分の庭の様に歩き回っている。

小学生になった孫の成長を楽しみに、これからも明るく元気に過ごしたいものだ。

『虻蜂取らず。』だよ(母の声)

(平成十四年三月退職)

## 「挑戦 五題」



能代市山本郡

佐藤 清美

退職後五年ぐらいいは元気で過ごしたいものだと思いで退職しましたが、気が付けば九年の月日が流れました。

最初の二年間は県の福祉事務所で家庭相談員（週四日）、後の七年間は能代市の社会教育相談員（週三日）という職を得て、いわゆるソフトランディングを体験。とても恵まれていたと感謝しています。退職後は自由な時間を使って様々なことに挑戦（ちよっと大げさですが）して来ました。（生来の物好きに由来）

その一、ゴルフ・・・体力維持とリフレッシュを兼ねて継続。ここ数年はなんとかシミュを維持、夢はエージシユーター。

その二、ダリアの栽培・・・四・五年前雄和のダリア園に行ったことをきっかけに始めました。用土や肥料、球根の越冬などようやくわかり始めたかな？

その三、梅干しづくり・・・挑戦して四年目、塩漬け、土用干し、本漬けなど結構難しく道半ば（買ったほうが安いとの小言も）。

その四、漬け物（鉾漬け）・・・今年初めて挑戦、ビギナーズラックで家人には好評？。調子に乗って来年もやってみようかな。

その五、干し柿づくり・・・これも今年初

めの挑戦、風通しがよく雨に当たらない場所探しに苦労しながらも、愛情をこめて揉みほぐし、我ながら立派な出来栄に。（自画自賛）しかしながら、保存方法が未熟でカビ発生、正味は半分だけ。まことに残念かつ悔しく来年は必ずうまくやろうと心に誓う。

と言うような具合で、「もの好き」が健康の源になっているような気がしています。オーロラを見たい、ハワイでクジラを見たい・・・まだ大きな挑戦？が残っています。

（平成二十三年三月退職）

## 二つの趣味でボランティア



男鹿市

進藤 吉彦

退職したら何をしようかと思う暇もなく、私の趣味といえるものが二つあります。退職したら趣味を生かした生活ができればよいのではないかと考えていました。

一つ目の趣味は、DIY（日曜大工）です。物作りが好きで年に一つは何かしら木工で製作していました。最近では自宅の老朽化が進み、床板の張替が多く、年に一部屋の割合で三部屋が終了しています。

再任用でお世話になってる今の学校でも、以前勤務しているときに製作したものが昨年赴任した時にまだ残っていました。全校

合唱用の台や司会者用テーブル、卓球部のカントリー用ボックスなど、製作したものが活用されていることに喜びを感じました。再任用で赴任してきた昨年は、跳び箱運搬用の台車を四台とマット運搬用の台車を一台作成しました。今年は、キャスター付きフアイルボックスとロングマット運搬用台車二台を作成しました。以前より準備や後片付けがスムーズにできている様子を見ながらひとり自己満足に浸っています。

二つ目の趣味は、ゴルフです。下手な横好きで四十歳台で始めたのですが、年々スコアが悪くなってきたのが現状です。ただ、長く所属クラブにしているとジュニア育成委員会の役が回ってきました。小・中学生の練習のお手伝いをしたり、コースに出るときにカート運転やグリーン上でのマナーやエチケットのアドバイスをしたりしています。

今後は友達をボランティアに誘い、平日の夕方からコースやグリーン上のディボットの修理などをして、県内で二番目に古いゴルフコースを守り育みながら、ジュニアの育成に微力ながら努めていきたいと考えています。

（平成三十年三月退職）





## いろいろあって・・・幸せ



潟上市・南秋田郡  
丸山 岳人

私には、「退職したら、やってみたい。」と思っていたことがいくつかありました。そして退職を迎え、それに取り組むことができる日々を楽しく過ごしています。

その一つは、「石ころ」の魅力を伝える活動です。子どもの頃から石拾いが趣味で、部屋の中にたくさんころがっているのですが、なかなか共感してくれる人とは出会えません。そこで、少しずつでも「石ころ（岩石・鉱物）」の魅力を伝えていくことができたらと思い、二年間のジオパークガイド養成講座を受講しました。ようやく来年度から活動できそうで、今から楽しみです。

もう一つは、環境保護活動です。現在2つの団体に所属して活動しています。子どもたちを対象とした自然体験活動がその中心で、長年の経験も少しは生かせそうです。また、一般の方を対象とした自然観察活動も行っていますが、参加者は限られており、難しさも感じています。

もう一つ、本の読み聞かせ活動も行っています。絵本や紙芝居、組木を使ったお話など、子どもたちが楽しめるようにいろいろ工夫しています。聴き入ってくれる子どもたちの姿も嬉しいのですが、その工夫を考えている

時間もまた楽しいひとときとなっています。まだまだ他にもやってみたいことがあります、少しずつ取り組み始めていますが、いろいろありすぎて、まだ始めることができずにいることもあります。でも、次はどれを・・・と考えている時間も楽しく、これも幸せなのかな・・・と思っています。

(平成二十九年三月退職)

## セカンド ステージ



秋田市  
鎌田 寿和

退職して四年が過ぎました。今は、退職後二つ目の職場である秋田大学で教育実習関係の仕事させてもらっています。

二年生が附属小・中で行う二週間の教育実習の事前事後指導や三年生が公立小・中で行う三週間の実習のお世話、そして、教職大学院一年生のインターンシップ等に携わっています。

教師になることを真剣に考え、頑張っている学生たちと接しながら、自分の教職人生を振り返る機会を与えてもらったことに感謝しています。

また、教員免許状更新講習の仕事もあります。これは、ある意味で「ストレス」です。昨年は、横手市・大仙市・秋田市・大館市

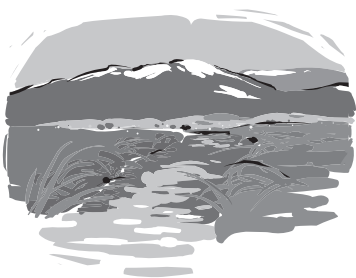
とまわりましたが、講習内容が多く、胸にストンと落ちるまでには時間が必要で、四苦八苦して取り組んでいます。恥ずかしながら、自信のないところもあります。学習内容が増え、現場の先生方は益々大変になってきていると感じます。

退職してからの楽しみは、京都で過ごした大学時代の友人との交流。筑波の研修で知り合った全国に散らばる仲間との旅行計画。妻と一緒に出かけます。そして、この職場で新しく出会った方々とのいろいろな体験などです。

家庭では、枝豆やトマト、なすなど家庭菜園も始めました。まだまだ初心者ですが、それなりに収穫もあり、生活に潤いを与えてくれます。

春になったら、職場までの片道二・七キロを季節の風を感じ、流れる雲を追いながら徒歩通勤です。インターバルウォーキングを意識して。

(平成二十八年三月退職)



## 地域に根ざした学校



由利本荘・にかほ

櫻井茂和

西目小学校の学校運営協議会に出席した折、「学校運営協議会を主体として、地域、保護者、教育委員会、地域団体と連携しながら、学校教育目標である『ふるさとに学び、主体的にたくましく生きるこどもの育成』を実践している」と、協議会の活動が文部科学大臣より表彰されたと校長先生から報告があった。

地域学校協働活動の特徴的な取組例を挙げるとしても紙数が足りないが、教育環境整備（校地内の美化・整備）や学校安全（登下校の見守り・通学路の安全確認など）の取組をはじめとして、多彩な授業支援や「かかしプロジェクト」（かかしづくりを通じた地域住民・保護者・幼稚園児・中高生徒と児童との交流活動）などが挙げられる。

西目小がコミュニティスクールとなり、学校運営協議会が表彰されたのだが、社会科・生活科・総合的な学習の時間・正課クラブ等への支援など、その取組はずっと以前から行われてきていることであり、これまでの長年の営みが評価されたものと思う。

私の母校であるだけでなく、三人の子どもも卒業し、間もなく孫も入学するであろう西目小学校である。かつて勤務していたことも

あり、現在の校舎の設計に携わったことは今でも自慢にしている。

退職後、西目小学校のビオトープを掃除している人たちの仲間に加えてもらった。地域の環境保全活動の会の人たちで、児童たちの米作りのお手伝いもしている。かかしプロジェクトやあいさつチャレンジの活動にも顔を出すようにしている。いろいろな形でお世話になり、これからもお世話になるだろう学校にずっと関わっていききたいものと思っている。

（平成二十六年三月退職）

## 「校長そして社長、人生二度愉しむ」



大曲仙北

鈴木恒久

「社長、契約書にハンコお願いします。」

「社長、集金ありますのでお願いします。」

「社長、車にガソリンお願いします。」

ここは従業員三人の小さな会社。

「はい、了解！」

元気に明るく返事をする社長が私である。

校長退職一年前、息子から相談があった。会社を辞めて独立したいので、お金の工面と社長業をお願いしたいとのことだった。以前から独立することについては了解しており、資金提供と社長業についても快く承諾した。ただし、会社立ち上げに関して動き始めるの

は退職後になることを告げ、土地購入だけは進めることにした。

退職後、会社設立に向けてインターネットで情報を収集した。全くの素人でも分かりやすい有益な情報が多く、道筋が見えてきた。

しかし、知らない世界に飛び込み右往左往しかねない。ここは、信用信頼できる専門家の力を借りて進めることが、一番安全・安心・堅実であることに至った。有り難いことに人望の厚い、税理士、社会保険労務士、司法書士に出会うことができ、事務的な手続きが完了した。

平成三十年四月一日から社長業が始まり、間もなく二年になろうとしている。未だに分からないことが多く、いろんな業界の方々に聞きまくっている。すると、ほとんどの方が優しく丁寧に応えてくれる。世の中は、人と人が繋がりが合い成り立っており、世の中の一人として他の人々と繋がりが合う喜びと嬉しさを実感できるのも社長業に携わっているからと感謝している。

『人生は 社長になりて 二度愉し』

（平成二十九年三月退職）



## 地域から元気をいただいて



横手市

石橋 研一

「これ、ゴニゴニする」、「どうしてこんな模様がでできるの」、「また、乗ってみたい」、「何枚も重ねて作ってもいい?」、「ほかのやり方も知ってるよ」。口々に声を発する子ども達の柔軟でかつ大胆な発想と強い好奇心にはいつも圧倒される。一方、「〇〇の材料は□□の方がよりインパクトがあったかも・・・」といったながら顔をほころばせる会員。

学校の授業以外の場でも子ども達が気軽に「身近な科学」に触れることができるようにと平成二十八年にスタートした「わくわく科学工房」の活動も四年になるうとしていく。会員は二十一人で多くは小・中・高等学校の理科の元教員である。会の総力を挙げて取り組んでいる活動は二つの主催事業である。

一つは、市民を対象に毎年十二月上旬の日曜日に横手駅前のわいわい(Y2)プラザを会場に実施している【わくわく科学実験教室】、もう一つは、親子での参加を原則に(定員三十人)年四回実施している【わくわく自然を学ぼう体験プロジェクト】(化石採集、動植物の観察、川の生きものの調べ)である。

事業の実施にあたっては、予備実験やリハーサル、現地の下見などを念入りに行い、当日を含めたこれら全ての機会が会員の重要

な研修の場であるとの認識を共有しながら率直な意見交換と内容の改善に努めている。

今後は、主催事業に加えて引き続き市や福祉関係団体などからの講師派遣要請に積極的に対応していくことを会員間で確認している。科学に関心を寄せる子ども達とこれを後押ししてくださる地域住民からたくさんの方の元気をいただいていることに感謝し今後も科学教室などの場づくりを力尽くして参りたい。

(平成二十二年三月退職)

## 人との出会いを楽しむ日々



湯沢雄勝

高橋 剛

退職しても人間関係は広げたいと思いつつ人生の再スタートをきってから一年が過ぎようとしています。現在は手話サークルと観光ガイドの会で活動をして、その中で様々な年代の方々と出会い、知り合いになつていきます。

手話サークルは、毎週一回の活動です。受講者は現在五名で、全員私より年下の女性です。当初は、緊張感と人前で手話に近いジェスチャーをするのが恥ずかしくて続けることができないか不安でしたが、今はラインでのやりとりや懇親会を開いたりする仲間です。彼女たちは、日中、それぞれの職場で働き、開始時間ギリギリに教室に来ます。疲れた表情

を一切見せず、「覚えたい」という強い意欲が講師とのやりとりに見えます。なかなか覚えられない私は必死です。テキストの文を手話辞典で調べ、覚えた手話が講師に通じた時は「やったあ」と腹の中で小さくガッツポーズして、覚えることの楽しさを実感しています。

観光ガイドは、月一回の定例会・旅行者のガイド・イベント協力・学校教育活動への協力等があります。会員は二〇名で皆さんがベテラン。何よりも湯沢への深い愛情をもって活動しています。一方、私は湯沢に住んで五十一年以上ですが、地域に関する知識は皆無。それが一番の不安でした。その不安に対して先輩方は「初めはそう」「次第に覚える」と声をかけてくれました。初の活動、七夕祭りでの読み聞かせは極度の緊張でした。その後、敬老会の読み聞かせ、小学校での授業等を経験しました。活動の楽しみは、説明資料を見直すと必ず自分なりの発見があり自分の財産が増えることと、人との出会いの機会が増えることです。

(平成三十一年三月退職)





おめでとうございます  
(順不同・敬称略)

| 祝叙勲    |        |            |         |           |          |           |        |               |        |         | 氏名            | 現住所    | 功労     | 種類      | 受章日 |
|--------|--------|------------|---------|-----------|----------|-----------|--------|---------------|--------|---------|---------------|--------|--------|---------|-----|
| 千葉 勇   | 大久保 純治 | 畑 中 喜輝     | 加藤 英二   | 直嶋 康則     | 中嶋 正三    | 戸嶋 弘文     | 佐藤 正   | 千葉 克一         | 田 中 勇  | 大里 廣明   | 鹿角市十和田毛馬内字城ノ下 | 教育功労   | 瑞宝 双光章 | 元・12・13 |     |
| 仙北市田沢湖 | 大仙市角間川 | 由利本荘市前郷字前郷 | 秋田市新屋表町 | 能代市向能代字上野 | 大館市字八幡沢岱 | 北秋田市坊沢字屋敷 | 大館市東台  | 大館市比内町扇田字伊勢堂岱 | 大館市有浦  | 大館市有浦   | 高齡者叙勲         | 瑞宝 双光章 | 元・8・1  |         |     |
| 教育功労   | 高齡者叙勲  | 教育功労       | 高齡者叙勲   | 教育功労      | 高齡者叙勲    | 高齡者叙勲     | 高齡者叙勲  | 高齡者叙勲         | 高齡者叙勲  | 高齡者叙勲   | 教育功労          | 瑞宝 双光章 | 元・11・3 |         |     |
| 瑞宝 双光章 | 瑞宝 双光章 | 瑞宝 双光章     | 瑞宝 双光章  | 瑞宝 双光章    | 瑞宝 双光章   | 瑞宝 双光章    | 瑞宝 小綬章 | 瑞宝 双光章        | 瑞宝 双光章 | 瑞宝 双光章  | 教育功労          | 瑞宝 双光章 | 元・11・3 |         |     |
| 元・11・3 | 元・7・1  | 元・11・3     | 元・8・1   | 元・11・3    | 2・1・1    | 元・11・1    | 元・10・1 | 元・10・1        | 元・8・1  | 元・12・13 | 教育功労          | 瑞宝 双光章 | 元・11・3 |         |     |

おめでとうございます

(順不同・敬称略)

東北地区退職校長会協議会  
第四十七回青森大会報告(概要)

東北地区退職校長会協議会青森大会が、令和元年十月十日～十一日、青森市の「アラスカ」を会場に、七十八名の出席者のもとに開催された。秋田県退職校長会結成50周年記念事業の直前の開催ということで、厳しい日程ではあったが、前年度の秋田大会を受けての大会であり、本県からは、佐藤俊彦会長、高橋一郎副会長及び伊藤栄二常任理事が参加した。

理事会では、大会運営について主管各県の主体性を尊重することが改めて確認され、次年度の岩手大会は、令和二年十月十五日～十六日の「ホテル紫苑」での開催が承認された。大会では、全連退常任理事の三上裕三氏より「当面する全連退の課題について」の講話があった。また、協議において、本県からは『「あきたブランド」創造の教師たちへのエール」と題して話題提供を行ったが、退職校長会の取組みの在り方について多くの称賛の声が聞かれた。

【あとがき】

今回の会報九十四号は、結成五十周年関連のことを少しでも多く紹介したいとの思いから、少し見にくい(小さい)紙面になってしまいました。特に、シンポジウムについては、要点をまとめるということが難しく、且つどれも捨てがたいご意見であり、ご覧のとおり小さな文字になってしまいました。どうかご容赦下さい。

なお、失礼かとは思いましたが、この欄を使って式典・シンポジウムの後、盛大に催された祝賀会の様子の写真を一枚だけですが紹介させていただきます。

秋田市では、二月に一度、どつと雪が降り、それなりに難儀をしたのですが、総じて雪の少ない冬だったように思います。雪かき、車の運転にはとてもありがたいことですが、果たしてこれでいいのか？という思いがあるのは何故でしょう。

